

OnAir 1500 ユーザーレポート

東京メトロポリタンテレビジョン株式会社 様

OnAir 1500-12F



中継用・汎用可搬卓をOnAir 1500で更新



東京メトロポリタンテレビジョン株式会社
技術局 技術部
安住 周吾

導入のきっかけ

中継及び局内での小型汎用卓として、開局当時から10ch入力のアナログ卓を使用してきました。今回、当該ミキサーを更新するにあたり、機種選定の為、同一クラスの数機種を比較検討した結果、スチューダー社OnAir 1500を導入することとなりました。

考慮した点

選定にあたっては、まず一番重要な音質の部分、誰もが違和感なく使いこなせる操作性、機器の信頼性、そしてアフターフォロー体制の4つの視点で比較検討を行いました。ラジオ放送向けの音声卓ということで、最近のデジタル卓に見られる、入出力及びGUIの柔軟性や高い操作性には及ばない部分もあると考えましたが、複数の音を2MIXにまとめる、という限られた目的においては、シンプル且つ洗練されたインターフェースにより、安心してミキシングが出来ると判断しました。卓面の操作部分は限られていますが、映像モニター及びマウス等を使用し、豊富な入出力のルーティングや機能を変更できる点も評

価しています。また、国内各局への豊富な導入実績、そして放送機器として一番大事な電源部分ではDC入力も可能である等、生放送における冗長性が高い点、スチューダー社が長年の放送局での現場で培ったノウハウが多くある点も大きな魅力でした。

実際に使用している場面

現在、当社では毎週東京都知事の定例記者会見を、OnAir 1500を使用して生中継しています。他にも「F.C. TOKYO魂!」などの、社内で制作している収録番組でも使用しています。スチューダー・ジャパン様で考案された、卓及び本体を一体で収納可能なケースを当社仕様で製作し、現場の状況に合わせた様々なセッティング方法で使うことが可能となっています。

実際に使用してみて

実際に使用してみて、一番満足しているのは、やはり音質の部分です。スチューダー社のヘッドアンプは、マイクの種類やゲイン設定に左右されず、常に安定した音質で、マイクケーブルを長距離引き回した場合も、ノイズ等の不安がありません。このクラスの卓でも、ヘッドアンプの基本性能がスタジオ用大型機種と殆ど変わらないのは、大きな魅力です。また、イコライザー及びダイナ

ミクスについても、デジタル感が無く、聴感上スムーズで思い通りの効果を発揮してくれます。

これまで、アナログ卓を使用する場合にはADAが必須でしたが、OnAir 1500の場合は豊富な入出力により、ADA等周辺機器を準備しなくてもラウドネスメーターや収録用VTRへの接続が可能となりました。拡張オプションでMADI入出力等の追加が可能という、拡張性の高さもポイントです。運用上、オシレータ出力を毎回使用することから、モニターセクションのボタンでオシレータのON/OFFができるようアサイン及びキートップをカスタマイズしていただきました。SNAP SHOT機能を利用することで、レギュラーで使用している番組での基本設定を保存しておき、セッティング時間の短縮を図っています。

最後に

アナログ卓と比較すると、多少操作方法の習熟が必要ですが、OnAir 1500の音は、誰もが「音が良い」と納得できるデジタル卓だと思います。テレビ局における「中継用音声卓」としての導入は当社が初ということで正直不安もありましたが、満足できる結果となりました。導入にあたりご協力いただいた、スチューダー・ジャパン・ブロードキャスト株式会社様、株式会社石川トランク製作所様に感謝申し上げます。